

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p1)

外来ポプラ類の学名・和名(筆者の判断で妥当と考えるもの: 改訂2015/1/15)

- ◇*P. alba* L. ウラジロハコヤナギ(ギンドロ) ◇*P. tremula* L. ヨーロッパヤマナラシ
- ◇*P. nigra* L. クロヤマナラシ(ヨーロッパクロヤマナラシ) ◇*P. tremuloides* Michx. アメリカヤマナラシ
- ◇*P. deltoides* Bartr. ex Marshall ナミキドロ(ヒロハハコヤナギ)
- ◇*P. × angulata* (便宜的に使用) カロリナポプラ ◇*P. × canadensis* Moench カイリョウポプラ
- ◇*P. × italica* (便宜的に使用) セイヨウハコヤナギ(イタリアヤマナラシ)

《はじめに》

外来ポプラ類は、葉模様や樹形の美しさなど景観美的理由から、わが国では街路樹や装飾樹として明治の初めごろから用いられてきた(北大のポプラ並木など代表的である)。一方、林業経済上の理由(初期成長がきわめて早く、容易に枝挿し増殖ができて産業用原料として優れる)から、ポプラ類が世界各国で改良研究され多くの雑種や栽培品種が生み出されてきた。わが国にも多数の系統クローンが導入され、各地で改良研究され活用されてきたが、こうした複雑な導入の経緯もあって、外来ポプラ類の和名学名の取り扱いは定まっておらず、植物公園などの樹種表記も混乱や間違いがみられる。改良ポプラの品種を含めた外来ポプラ類の識別は大変難しく、導入由来や栽培にあたっての管理が種判明の手がかりとなるため、和名学名の標準化は大変重要に思える。以下に混乱が多くみられる外来ポプラ類、狭円柱状樹形の種、改良ポプラ類、カロリナ種など、その実情を記録し整理し考察を試みる。(2012/6/23初稿: 2015/1/15改訂 山口純一)

注: 和名混乱のため各文献の樹種についての記述は、どの樹種を指すのかが紛れるため、「*」印を付記して適時置き換えまたは追記した。学名採用文献一覧は年度順とし、()内は *synonym* を記している。



◀ 多摩川
狭円柱樹形のポプラ

▶ 多摩川
カロリナポプラと同定



◀ 新宿御苑
狭円柱樹形のポプラ

▶ 荒川
カロリナポプラと同定

